

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中に開催
株主確定基準日	定時株主総会権利行使 3月31日 期末配当受領 3月31日 中間配当受領 9月30日 その他必要あるとき あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人・特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市北区曾根崎二丁目11番16号 みずほ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部
お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-288-324(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告 ※公告掲載アドレス http://www.takara-bio.co.jp (ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)
証券コード	4974

<株式に関する諸手続についてのご注意>

1. 証券会社等でお取引されている株主様は、単元未満株式の買取、住所変更、改姓、商号・代表者変更等の諸手続につきましては、お取引されている証券会社等にご連絡ください。
2. 特別口座(平成21年1月5日に実施された株券電子化までに証券会社等を通じて証券保管振替機構に株券を預託されなかった株主様の権利を保護するために、当社がみずほ信託銀行に開設した口座)に記録されている株主様は、当該諸手続のほか、証券会社等の口座への株式振替申請につきましては、上記のお問合せ先にご連絡ください。なお、みずほ信託銀行の本店および全国各支店、みずほインベスターズ証券の本店および全国各支店でもお取扱いいたします。

免責事項：本報告書に記載されている通期の業績見通しなど将来についての事項は、予期しない経済状況の変化などさまざまな要因の影響を受けるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

タカラバイオ株式会社

〒520-2193 滋賀県大津市瀬田三丁目4番1号
 TEL: 077-543-7212
 URL: <http://www.takara-bio.co.jp>

第10期 中間報告書
 株主のみなさまへ

平成23年4月1日～平成23年9月30日



タカラバイオの基本戦略 1
 中期経営計画 2
 株主のみなさまへ 3
 事業の概要 4
 もっと知りたい、タカラバイオのキーワード 7
 バイオニュース 9
 連結財務状況 11
 株式情報 13
 会社概要 14

遺伝子工学研究事業で培った技術を基盤に、
食品分野、さらに医療分野へと事業領域を拡大していきます。

企業理念

遺伝子治療などの
革新的なバイオ技術の開発を通じて、
人々の健康に貢献します。

安定収益事業
遺伝子工学研究事業

世界中のバイオ研究者に研究用試薬、
理化学機器、研究受託サービス
などを提供しています。



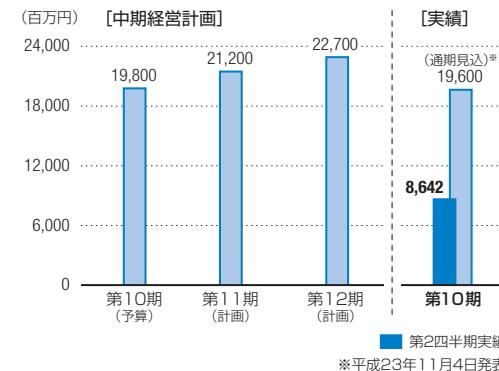
将来の成長事業
遺伝子医療事業

レトロネクチン法およびレトロネクチン®
拡大培養法を核にした遺伝子治療・
細胞医療の商業化を推進しています。

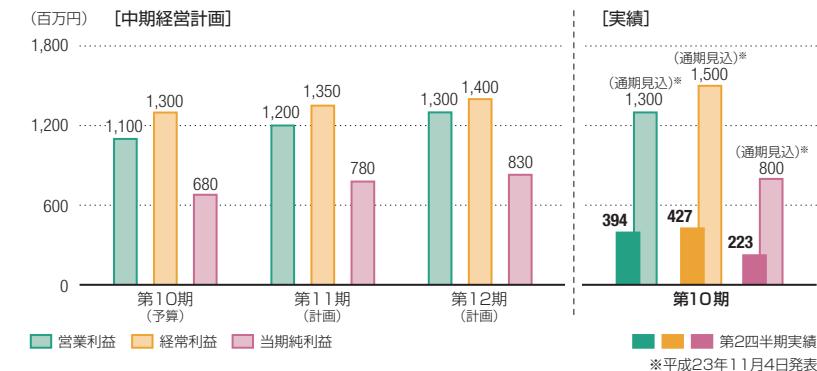
研究開発費の増加を吸収しながら、
利益の拡大を目指します。

グループ連結通期業績目標（平成23年4月～平成26年3月）

連結売上高



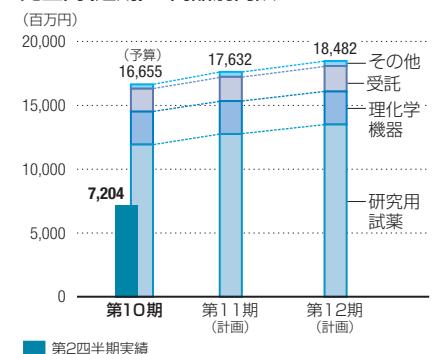
連結営業利益・経常利益・当期純利益



遺伝子工学研究事業
新製品・サービスの提供、
海外での販売強化

細胞生物学分野への積極的な新製品・サービスの
投入、中国・インドでの販売力強化、欧州代理店網の
再編などによる売上拡大を目指します。

売上高(通期)の商品別内訳



医食品バイオ事業
健康食品およびキノコの
売上拡大による営業黒字化

機能性食品素材のエビデンス強化とB to B市場
での売上拡大、自社販売によるキノコの売上増加
などによって、営業黒字化を目指します。

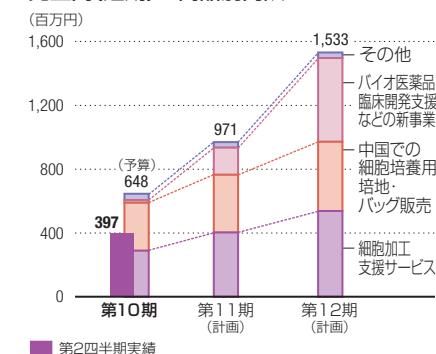
売上高(通期)の商品別内訳



遺伝子医療事業
臨床開発を積極的に
進めながら、売上も拡大

遺伝子治療・細胞医療の臨床開発を進めるとともに、
がん免疫細胞療法やバイオ医薬品開発の支援事業
などにより、売上を拡大していきます。

売上高(通期)の商品別内訳



収益の拡大を図りながら、基盤技術のさらなる強化と 遺伝子医療の臨床開発に積極的に取り組んでいきます。



代表取締役社長
仲尾 功一

などによって増加したものの、営業利益は前年同期比199百万円(102.7%)増加の394百万円、経常利益は前年同期比200百万円(88.5%)増加の427百万円となりました。特別損失として固定資産除売却損145百万円を計上しましたが、前期に計上した訴訟関連損失や資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額がなくなったことなどにより収支が改善し、四半期純利益は223百万円(前年同期は四半期純損失134百万円)を計上いたしました。

なお、当期末の配当につきましては、各事業における研究開発活動を今後も引き続き実施していく必要があることから、内部留保を充実させるべく、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。なにとぞご了承くださいませようお願い申し上げます。

収益基盤の強化に努めながら、将来の成長に向けた 研究開発投資を継続していきます。

当社グループの研究開発型企業としての競争力をよりいっそう高めるためには、継続的な研究開発投資が必要となります。今後も、バイオテクノロジー研究のトップランナーを続けるために積極的な研究開発への取り組みを行いながら、安定収益事業である「遺伝子工学研究事業」のさらなる収益力強化、「医食品バイオ事業」の収益事業化によって収益基盤を強化し、将来の成長事業である「遺伝子医療事業」の臨床開発を推進してまいります。

通期の連結業績につきましては、売上高は19,600百万円(前期比104.6%)、営業利益は1,300百万円(前期比118.5%)、経常利益は1,500百万円(前期比117.6%)、当期純利益は800百万円(前期比132.2%)を見込んでいます。

株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご支援、ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

平成23年12月

遺伝子工学研究事業、遺伝子医療事業が 好調に推移し、増収増益となりました。

株主のみなさまには、平素より格別のご支援をいただき、まことにありがとうございます。

当第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年9月30日)のわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞から、生産や輸出を中心に持ち直してきたものの、欧州の債務問題に伴う金融市場の混乱や米国経済の減速懸念に加え、急激な円高の進行などによって、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは、遺伝子工学研究事業、医食品バイオ事業、遺伝子医療事業の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めました。

その結果、売上高は、遺伝子工学研究事業における研究用試薬が前年同期を上回り、遺伝子医療事業も好調に推移したことなどによって、前年同期比198百万円(2.4%)増加の8,642百万円となりました。売上の増加および原価率の低下によって売上総利益は前年同期比285百万円(6.4%)増加の4,768百万円となり、販売費及び一般管理費が、運送費、販売促進費や研究開発費

遺伝子工学研究事業

円高の影響を受けたものの、研究用試薬や理化学機器の
売上高が増加し、増収増益となりました。

当事業の概要

バイオテクノロジー関連分野では、遺伝子の機能解析、細胞内・生体内での生命現象や疾患のメカニズムの解明といった研究開発活動がますます広がりを見せています。

当事業では、このようなバイオテクノロジー研究を支援する製品やサービスを全世界に提供しています。

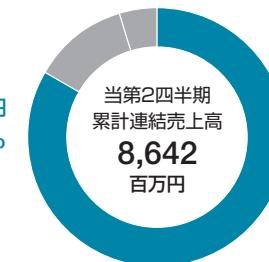
当第2四半期連結累計期間の概況

研究用試薬の売上高は、円高の影響を受けたものの前年同期比で増加しました。理化学機器は、質量分析装置などの売上高の増加が寄与し、前年同期比で増加しました。一方、研究受託サービスの売上高は前年同期比で減少しました。

この結果、当事業の売上高は7,204百万円(前年同期比101.4%)と増収となり、売上総利益も4,478百万円(前年同期比105.8%)と増加しました。販売費及び一般管理費は、人件



7,204百万円
83.4%



費などの減少により2,577百万円(前年同期比99.7%)と減少したため、営業利益は1,900百万円(前年同期比115.2%)と前年同期を上回りました。

今後の方針

研究開発面においては、成長市場であるリアルタイムPCR分野や今後の成長が期待される細胞生物学分野における新製品・サービスの開発に引き続き注力していきます。また、分子診断や食品分析といった産業支援領域における製品開発にも取り組んでいきます。

販売面においては、中国・インドといった新興国における販売力の強化、米国におけるeコマースの活用、欧州における代理店網の再編などを進め、売上の拡大を目指します。

遺伝子工学研究事業 連結売上高



医食品バイオ事業

キノコ関連製品の売上減により減収となったものの、販売費及び一般管理費の減少により増益となりました。

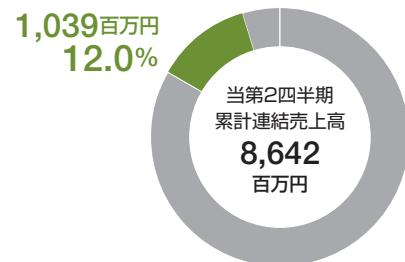
当事業の概要

当事業では、基盤技術であるバイオテクノロジーによって日本古来の食品素材の機能性を明らかにし、それらの素材を活かした健康食品の開発・製造を行っています。

また、キノコの新品種育成や大規模栽培といった技術を活かし、ハタケシメジやホンシメジの生産販売、キノコ栽培技術のライセンスなどを展開しています。

当第2四半期連結累計期間の概況

健康食品の売上高は、残留農薬検査事業終了による影響があったものの、フコイダン関連製品が好調であったため前年同期比で増加しました。一方、キノコ関連製品の売上高が減少したことにより、当事業の売上高は1,039百万円(前年同期比95.1%)と減収となりました。



売上総利益は91百万円(前年同期比67.2%)と減少しましたが、販売費及び一般管理費が、研究開発費などの減少により289百万円(前年同期比81.5%)と減少したため、営業損失は197百万円(前年同期は営業損失218百万円)と前期よりも改善しました。

今後の方針

健康食品事業では、機能性食品素材のヒト試験データの取得によるエビデンスの強化に取り組み、B to B市場での売上拡大を目指します。また、より安全・安心な製品を提供するための品質保証や品質管理体制の充実に引き続き取り組んでいきます。

キノコ関連事業では、ハタケシメジ・ホンシメジの生産技術向上などによる生産量の増加および自社販売体制のさらなる強化に努めていきます。

医食品バイオ事業 連結売上高



遺伝子医療事業

がん免疫細胞療法に関する支援事業が引き続き好調を維持し、大幅な増収となりました。

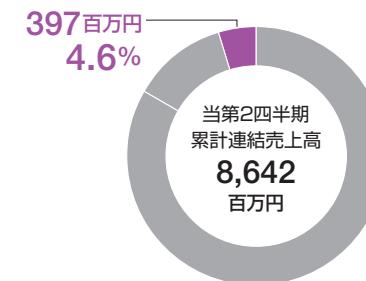
当事業の概要

当事業では、高効率遺伝子導入技術レトロネクチン法や、高効率・高機能リンパ球増殖技術であるレトロネクチン®拡大培養法、RNA分解酵素などの自社技術を利用して、がんやエイズの遺伝子治療・細胞医療の商業化に取り組んでいます。

また、これまでに培った技術とノウハウを活用し、細胞加工技術支援サービスや細胞培養用培地・バッグの販売などががん免疫細胞療法に関する支援事業、バイオ医薬品の臨床開発支援事業を展開しています。

当第2四半期連結累計期間の概況

サービスを提供する医療機関が増加したことなどで細胞加工技術支援サービスの売上が増加し、中国における細胞培養用培地・バッグの販売も引き続き好調であったことから、当事業の売上高は397百万円(前年同期比161.4%)と大幅な増収



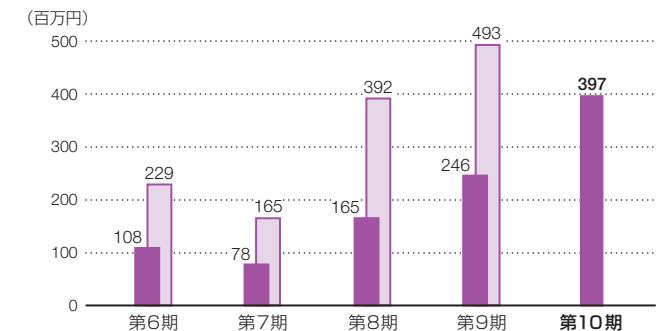
となりました。また、売上総利益についても198百万円(前年同期比177.9%)と増加しました。販売費及び一般管理費は、研究開発費を中心に771百万円(前年同期比118.5%)と増加したため、営業損失は572百万円(前年同期は営業損失539百万円)となりました。

今後の方針

遺伝子治療においては、HSV-TK遺伝子治療(白血病)、がん治療薬HF10、MazF遺伝子治療(エイズ)、TCR遺伝子治療(食道がんなど)の臨床開発を引き続き推進していきます。また、新たなプロジェクトとして、がんを対象としたCAR遺伝子治療にも取り組んでいきます。

細胞医療では、がん免疫細胞療法に関する支援事業のさらなる売上拡大に努めながら、NK細胞療法などの新たな細胞医療技術の開発を進めていきます。

遺伝子医療事業 連結売上高



Keyword of TAKARA BIO

FILE.3
フコイダン

タカラバイオについての理解がさらに深まる“キーワード”をご紹介します。

Keyword ① ガゴメ昆布「フコイダン」

昆布に含まれる“ぬめり”成分の一つでさまざまな効能を有しています。

「フコイダン」とは、昆布やもずくといった海藻類に特有の“ぬめり”の成分の一つで、いくつもの糖が並んでできる高分子の多糖類です。以前からフコイダンには、海藻が自らを守るバリア機能があることがわかっていました。

当社は、昆布の中でもぬめり成分が強くフコイダンを豊富に含む「ガゴメ昆布」に着目して20年にわたる研究を重ね、世界で初めてガゴメ昆布に含まれるフコイダン3種の化学構造を解明しました。さらに、細胞実験や動物実験によって、ガゴメ昆布フコイダンが、抗腫瘍・免疫活性化や、血栓抑制、抗インフルエンザ作用といった多様な効能を持つことを明らかにしてきました。

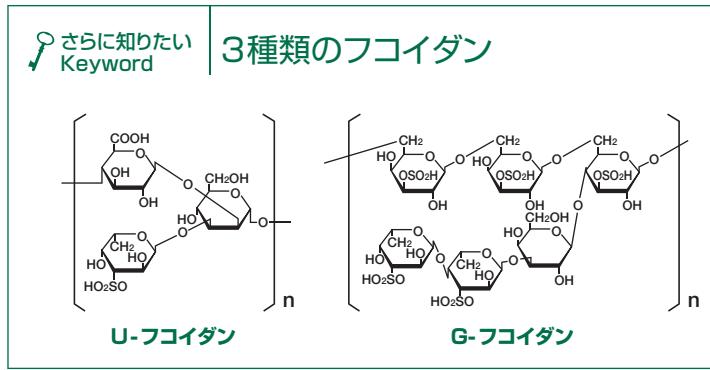
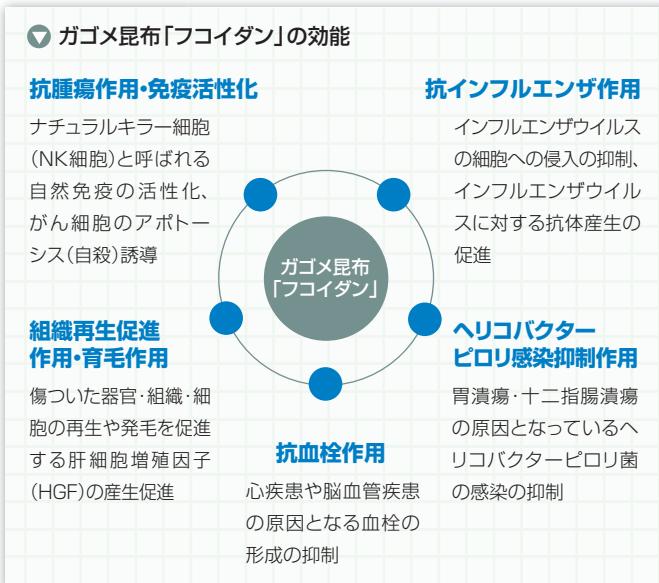
フコイダン

フコイダンは、海藻類のぬめり成分で、海藻が自らの傷を修復し、乾燥や細菌から守るバリア機能を持っています。



ガゴメ昆布

北海道函館周辺に生育するガゴメ昆布は、フコイダンを豊富に含んでいます。



Keyword ② 抗腫瘍作用

がん細胞を攻撃する免疫細胞を活性化する作用があります。

当社は動物実験や細胞実験によって、フコイダンがインターフェロン-γというタンパク質の産生を促し、がん細胞を攻撃するナチュラルキラー細胞 (NK細胞) を活性化することを確認しています。

さらに「U-フコイダン」には、がん細胞の自殺(アポトーシス)を誘導する作用があることも明らかにしています。

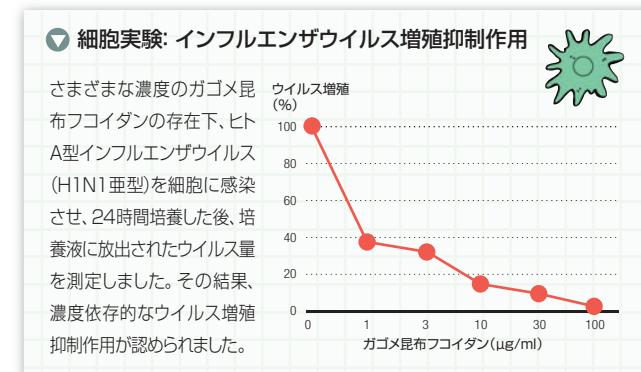


Keyword ③ 抗インフルエンザ作用

3つの効果で、ウイルス感染を抑制・予防します。

当社は、ガゴメ昆布フコイダンに、インフルエンザウイルスが細胞の中に侵入することを防ぐ効果、ナチュラルキラー細胞 (NK細胞) を活性化してウイルス感染を予防する効果、ウイルスに対する抗体の産生を促して再感染を予防する効果があることを明らかにしました。

動物実験では、フコイダンをあらかじめ摂取することでウイルスに感染しても症状を軽減できることが示されています。



Keyword ④ 機能性食品への応用

フコイダンの効能に関するエビデンスをさらに強化します。

当社は、ガゴメ昆布フコイダンの機能性食品素材としての有用性を明らかにするとともに、フコイダンを素材として含んだ機能性食品の開発、販売を進めています。

長年の研究によって、ガゴメ昆布フコイダンのさまざまな機能性が明らかとなってきましたが、機能性食品素材としての普及を促進するために、さらなるエビデンス(実証データ)の蓄積に取り組んでいます。

遺伝子工学研究事業 Bio News

生きた病原性細菌のみを選択的に検出できるシステムを新発売

当社は、食中毒の原因となるサルモネラ菌や循環式浴槽水の汚染で問題となったレジオネラ属菌などの、生きた病原性細菌のみを選択的に検出、定量するためのシステムを開発し、サルモネラ菌、レジオネラ属菌、グラム陰性菌に対応した試薬3種と専用装置を平成23年8月に発売しました。

食品製造の品質管理工程や環境分析などにおいて、近年、迅速(数時間)かつ高感度に病原性細菌の検査が行える遺伝子増幅法(PCR法またはリアルタイムPCR法)を用いた検査が広まりつつあります。しかしながら、現行の遺伝子増幅法では、混在する死んだ菌(死菌)の遺伝子(DNA)もあわせて検出してしまい、生きた菌(生菌)のみを検出することができませんでした。

当社はこの問題を解決するため、生菌由来の遺伝子を選択的に検出する技術(図参照)を実用化しました。これにより生菌のDNAのみを1日以内で検出することが可能となり、さらに、これまでの培養法と比較して検査に要する時間を大幅に削減することが可能となりました。

当社は、PCR・リアルタイムPCR法の応用分野(Applied Field)として、食品分析、環境分析、分子診断などの新製品開発に注力しています。今後もO-157を初めとした腸管出血性大腸菌などの製品ラインアップを拡充し、2年後には関連製品をあわせて年間2億円の売上を目指します。

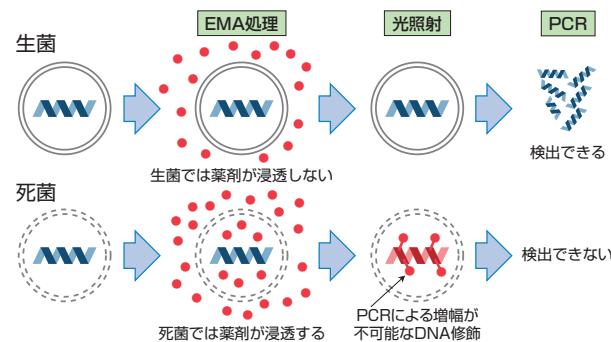


生菌DNA選択試薬



光照射装置

図:生菌由来の遺伝子(DNA)を選択的に検出する技術



EMAという薬剤を含む試薬を添加した後、光を照射してDNAと反応させると、生菌ではDNAへの化学修飾は起こりませんが、死菌由来のDNAはEMAによって化学修飾されます。修飾されたDNAは遺伝子増幅法では検出されないため、生菌由来のDNAのみが検出されます。

遺伝子工学研究事業 Bio News

ヒト全ゲノムシーケンス解析サービスを開始

当社は、次世代シーケンサーを用いた、ヒト全ゲノムを対象とするシーケンス解析サービスを平成23年6月に開始しました。

これまで、当社のドラゴンジェノミクスセンターでは、3機種の次世代シーケンサーを用いたゲノム解析サービスを提供してきており、ヒトゲノム(約30億塩基対)に関しては、特定の領域(5,000万塩基対以内)を対象とした変異解析サービスを実施してきました。今回、次世代シーケンサー新機種を追加導入することにより、総解析能力を10倍以上に増強し、ヒトゲノムなどの大型ゲノムの全ゲノムシーケンスを、1ヶ月で10検体以上解析できる体制を整えました。

がんや遺伝子疾患の研究、iPS細胞/ES細胞といった幹細胞の実用化に向けてのゲノム解析など、全ゲノムを対象とした解析のニーズは高まりつつあります。当社は、質の高いゲノム解析結果を提供し、この解析サービスで年間1億円の売上を目指します。

医食品バイオ事業 Bio News

より飲みやすく、さらにアガロオリゴ糖を増量『グルコサミン+アガロオリゴ糖』リニューアル

当社は、軟骨成分である「グルコサミン」に、寒天由来の有用成分「アガロオリゴ糖」を配合したサプリメント『グルコサミン+アガロオリゴ糖』を平成23年6月にリニューアル発売しました。

今回、グルコサミン原料を天然型で体内での利用率(身につく率)が高いといわれるN-アセチルグルコサミンに変更したことで、摂取目安量(1日当たり)が従来品の12粒から6粒となり、より飲みやすくなりました。さらに新製品では、従来品と比べ「アガロオリゴ糖」を1.5倍配合しました。また、外出時などでも手軽にお飲みいただけるように1日分を個包装にした形態に変更しました。

【製品の概要】

内容量: 40.68g(226mg×6粒×30包)

- 1日量(6粒)当たり
- グルコサミン500mg、
- アガロオリゴ糖300mg

希望小売価格: 5,040円(税込)

販売地域: 全国

お問い合わせ先: 宝ヘルスケア株式会社 ☎0120-810-771



遺伝子医療事業 Bio News

RNA分解酵素MazFを用いたエイズ遺伝子治療法において、サルでの動物試験結果を発表

当社と独立行政法人医薬基盤研究所 霊長類医学研究センターとが共同で実施してきた、RNA分解酵素MazFを用いたエイズ遺伝子治療法に関する安全性評価のためのカニクイザルを用いた動物試験の成果が、平成23年8月18日、学術誌PLOS ONE オンライン版に掲載されました。

遺伝子治療への展開を目指す上では、生体内に投与されたMazF

遺伝子導入細胞が長期間持続し、またその細胞に対する免疫応答が起こらない、あるいは軽微であることが望まれます。今回の評価の結果、遺伝子導入細胞が移植後半年を経過した末梢血中およびリンパ節組織や脾臓においても、生着していることが確認されました。また、各主要臓器の病理診断において有害な事象は認められず、移植したMazF遺伝子導入細胞が安全であることが確認されました。さらに、移植後半年以上経過したサルから分離したMazF遺伝子導入細胞がその機能を保持していることも示されました。

当社は、今回の成果を米国での臨床試験実施申請(IND: Investigational New Drug)の参考資料として利用し、平成23年度の米国での臨床試験開始に向けて準備を進めています。

遺伝子医療事業 Bio News

臨床試験での使用を目指したiPS細胞作製用プラスミドベクターの製造供給

当社と京都大学iPS細胞研究所とは、臨床試験における使用を目指したiPS細胞作製用プラスミドベクターの製造供給に関する契約を平成23年7月29日付で締結しました。

当社と同研究所とは、平成23年3月1日より、臨床試験での使用を目指し、iPS細胞を作製するためのプラスミドベクターの品質などに関して共同研究を実施しています。当社は、当社が保有するベクター製造技術、ノウハウや経験を活用し、同研究所が開発したプラスミドベクターを製造するための品質・規格値などを検証してきました。

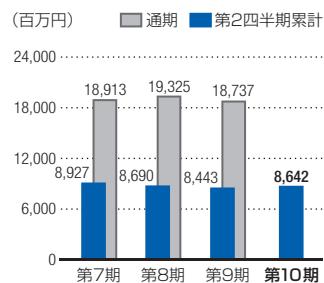
当社と同研究所は、引き続き共同研究を進め、医薬品医療機器総合機構との品質に関する相談を経て、平成23年度中に臨床試験用のiPS細胞作製用プラスミドベクターの製造を当社が有償で実施します。同研究所では、再生医療への応用に向けて、当該プラスミドベクターを用いた品質の保証されたiPS細胞を作製する計画です。

当社は、臨床試験向けのベクター製造供給やバイオ医薬品の安全性試験サービスを強化し、事業拡大を目指していきます。

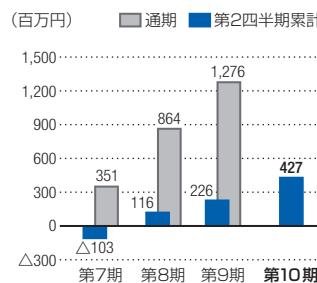
連結貸借対照表

科目	前連結会計年度 平成23年3月31日現在	当第2四半期 平成23年9月30日現在
資産の部		
流動資産	27,422	27,950
1 現金及び預金	17,429	18,428
2 受取手形及び売掛金	4,732	3,780
有価証券	1,599	1,610
たな卸資産	2,882	2,974
その他	806	1,180
貸倒引当金	△ 27	△ 23
固定資産	15,172	14,714
有形固定資産	10,889	10,648
建物及び構築物	3,857	3,692
機械装置及び運搬具	1,512	1,392
工具、器具及び備品	924	976
土地	4,492	4,494
リース資産	50	40
建設仮勘定	51	52
無形固定資産	2,412	2,298
のれん	1,501	1,426
その他	911	872
投資その他の資産	1,870	1,767
投資その他の資産	1,897	1,794
貸倒引当金	△ 26	△ 26
資産合計	42,594	42,664

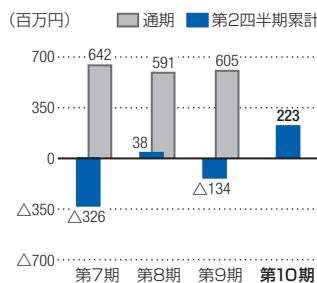
連結売上高



連結経常利益



連結当期純利益



連結純資産額



(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 平成23年3月31日現在	当第2四半期 平成23年9月30日現在
負債の部		
流動負債	3,108	2,868
支払手形及び買掛金	1,168	965
短期借入金	45	45
未払法人税等	117	173
引当金	177	257
その他	1,598	1,427
固定負債	1,865	1,825
長期借入金	364	350
退職給付引当金	1,131	1,133
その他	369	340
負債合計	4,973	4,694
純資産の部		
株主資本	39,626	39,849
資本金	9,068	9,068
資本剰余金	26,995	26,995
利益剰余金	3,561	3,785
その他の包括利益累計額	△ 2,017	△ 1,930
為替換算調整勘定	△ 2,017	△ 1,930
少数株主持分	11	51
純資産合計	37,620	37,970
負債純資産合計	42,594	42,664

連結損益計算書

科目	前第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
売上高	8,443	8,642
売上原価	3,960	3,873
売上総利益	4,483	4,768
販売費及び一般管理費	4,288	4,374
営業利益	194	394
営業外収益	55	66
受取利息	44	48
その他	10	18
営業外費用	23	33
支払利息	3	2
為替差損	17	26
その他	2	4
経常利益	226	427
特別利益	3	20
固定資産売却益	—	20
貸倒引当金戻入額	1	—
補助金収入	1	—
特別損失	221	145
3 固定資産除売却損	35	145
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	77	—
訴訟関連損失	108	—
その他	0	—
税金等調整前四半期純利益	7	301
法人税、住民税及び事業税	162	232
法人税等調整額	△ 23	△ 153
4 法人税等合計	138	78
少数株主損益調整前四半期純利益	△ 130	223
少数株主利益	3	△ 0
四半期純利益	△ 134	223

連結包括利益計算書

科目	前第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
少数株主損益調整前四半期純利益	△ 130	223
その他の包括利益	—	—
為替換算調整勘定	△ 393	85
四半期包括利益	△ 524	308
(内訳)	—	—
親会社株主に係る四半期包括利益	△ 527	310
少数株主に係る四半期包括利益	3	△ 1

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	前第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	当第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,088	1,376
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,842	△ 1,809
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 36	7
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 89	32
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,880	△ 393
現金及び現金同等物の期首残高	7,819	4,047
5 現金及び現金同等物の四半期末残高	5,939	3,653

POINT 1 現金及び預金

受取手形及び売掛金の回収などによる増加です。

POINT 2 受取手形及び売掛金

売上高の季節変動による減少です。

POINT 3 固定資産除売却損

老朽化した資産を売却したことによる増加です。

POINT 4 法人税等合計

子会社からの受取配当金の益金不算入などによる減少です。

POINT 5 現金及び現金同等物の四半期末残高

3ヶ月超の定期預金の預入などによる現金及び現金同等物の減少です。

(平成23年9月30日現在)

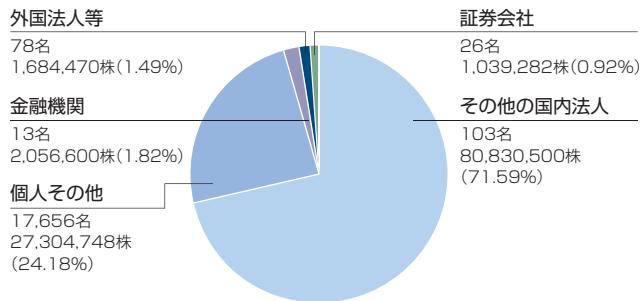
株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式総数	112,915,600 株
株主数	17,876名

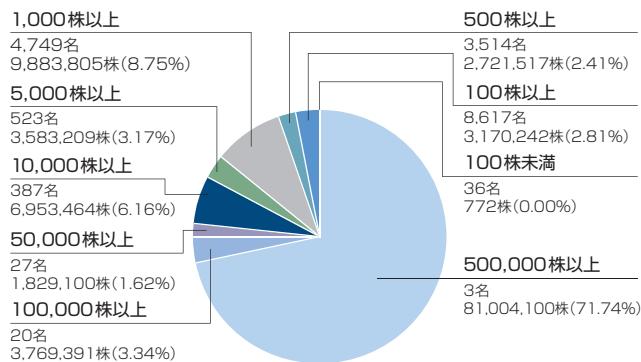
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
宝ホールディングス株式会社	80,000,000	70.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	504,100	0.45
株式会社京都銀行	500,000	0.44
タカラバイオ従業員持株会	326,500	0.29
株式会社滋賀銀行	300,000	0.27
エイチエスピーシー プライベートバンク(スイス) エス シンガポールトラスト アカウント クライアント	300,000	0.27
日本証券金融株式会社	277,900	0.25
有限会社エス・エヌ興産	240,000	0.21
マネックス証券株式会社	232,500	0.21
農林中央金庫	200,000	0.18

所有者別株式分布状況



所有株式数別株式分布状況



ホームページでさまざまな情報を発信しています。



コーポレートサイト
最新ニュースや企業情報、事業内容
などの情報をご覧ください。
<http://www.takara-bio.co.jp>



IRサイト
決算短信などの各種資料、決算説明
会のプレゼンテーション資料などを
ご覧ください。
<http://www.takara-bio.co.jp/ir>

(平成23年9月30日現在)

会社概要

商号	タカラバイオ株式会社 TAKARA BIO INC.
本店所在地	滋賀県大津市瀬田三丁目4番1号 ☎077-543-7200(代表)・7212(IR担当)
設立年月日	平成14年4月1日
資本金	90億6,818万8,496円
事業内容	バイオ研究用試薬・理化学機器などの製造・販売、 バイオ研究受託サービス、健康食品・キノコの 製造・販売、遺伝子治療・細胞医療の商業化など
従業員数	357名
ホームページアドレス	http://www.takara-bio.co.jp

役員

代表取締役社長	仲尾 功一
取締役会長	大宮 久
代表取締役副社長	木村 睦
専務取締役	竹迫 一任
取締役(社外取締役)	ジャワハルラル・バハット
常勤監査役	佐野 文明
常勤監査役	浅田 起代
監査役(社外監査役)	友村 秀夫
監査役(社外監査役)	釜田 富雄
常務執行役員	山本 和樹
常務執行役員	守口 誠
常務執行役員	浜岡 陽
常務執行役員	向井 博之
執行役員	玉置 雅英
執行役員	宮澤 博亮
執行役員	宮村 毅一
執行役員	峰野 純一
執行役員	北川 正成

タカラバイオグループ会社



タカラバイオ株式会社
研究用試薬・理化学機器の開発・販売、
研究受託サービス、
健康食品・キノコの製造・販売、
遺伝子治療・細胞医療の商業化

瑞穂農林株式会社
キノコの製造・販売

有限会社タカラバイオファーマーミングセンター
明日葉などの農作物の生産・販売

株式会社さきのこセンター金武
キノコの製造・販売